

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.5.15 No. 229 連絡先 FAX 042-555-1911



## MV-22オスプレイ1機 横田基地を拠点に 5月8日から 富士で演習



8日、13時25分、岩国基地を1機が離陸。15時15分、MV-22 B(ET44)が、横田基地に着陸。防衛省筋からの連絡は2時頃。

岩国から横田まで1時間50分でした。15時35分、横田を離陸。15時45分、キャンプ富士上空に飛来。上空を大きく2回旋回。北富士演習場に向かい着陸後、4回の離着陸訓練。16時25分、御殿場市内を大きく旋回。16時44分、横田着。



9日、10時11分、横田を離陸、10時28分、キャンプ富士着。米軍キャンプ富士では、11時から17時まで、フレンドシップフェスティバルが行われ、その後、19時19分、キャンプ富士を離陸、19時46分、横田に着陸。11日の10時14分、横田基地を離陸しました。(防衛局職員による目視の時刻とは、若干異なります。)(写真上、横田基地に飛来したオスプレイ。写真下、フレンドシップフェスティバルで機体の中まで展示されたオスプレイ。)

## CV-22オスプレイの横田基地配備 日本政府表明 平成27年5月12日

「5月11日(現地時間同日)、米国政府から日本政府に対し、2017年(平成29年)後半からCV-22オスプレイを横田飛行場に配備する旨の接受国通報があり、本12日(現地時間5月11日)、米国防省が同内容を発表しました。日本政府としては、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、米国が、リバランス政策や即応態勢整備の一環として、高い性能を有するCV-22オスプレイを我が国に配備することは、日米同盟の抑止力・対処力を向上させ、アジア太平洋地域の安定にも資すると考えています。」

## 米空軍が横田基地に 新型輸送機オスプレイ配備へ と朝日新聞

11日、朝日新聞朝刊が、「米空軍が横田基地(東京都福生市など)に新型輸送機オスプレイを配備する方針を固めたことがわかった。」と大きく報道しました。2013年7月29日の、カーライル米太平洋空軍司令官(当時)の「CV-22の配備先は嘉手納か横田」の発言後、横田基地の周辺5市1町は7月30日、直ちに「横田基地への配備が検討されていること自体、極めて遺憾な



ことであり、到底容認できるものではありません。」と配備検討の撤回を強く求めました。市民団体などが防衛省に行った時も「配備の話はない」と否定していました。それが、突然の報道です。(写真:5月11日15時から、防衛省のレクチャー受けるも、何も答えず。)

## CV-22 横田配備 2017年後半に3機、2021年までに計10機 (No. 229 の裏面)

11日、米政府がオスプレイの横田配備を正式に通告する「接受国通報」が日本政府にあり、防衛省北関東防衛局がこのことを午後4時ごろに5市1町に電話で伝えたそうです。5市1町には外務省と防衛省の担当者が12日に説明に出向きましたが、十分な説明はなかったようです。

CV-22 オスプレイの横田基地配備は、2017年後半までに3機、さらに、2021年までに7機配備し、あわせて10機を常駐させるというものです。CV-22 オスプレイについて、米国防総省は、「安全面で優れた運用記録を持った、極めて高度な航空機」と強調しますが、これは黒を白と言いくるめるようなものです。「MV-22 オスプレイの事故率について」(防衛省 2012年9月19日)には、10万飛行時間あたりのクラスA飛行事故の件数について、MV-22 オスプレイは1.93、CV-22 オスプレイは13.47と記載されており、CVの事故率の高さを強調しています。

### 中谷防衛相 「低空(150㍎) 飛行訓練、夜間飛行訓練を実施する」

「(アジア太平洋地域の)米軍の各軍種の特殊作戦部隊等を輸送する任務を持っており、低空飛行訓練、夜間飛行訓練、こういうことを実施することになっております」(中谷 元 防衛相)

平然と、国民を危険にさらすことを、よくも言えたものです。CV-22 オスプレイの横田基地配備は、米軍が勝手に設定した関東平野の飛行訓練空域やピンクなど名前をつけた低空飛行ルートでの訓練を視野に入れてのことです。日本全土をアメリカの戦争のための訓練場にさせないように、国民のいのち・暮らしを守るために、CV-22 オスプレイの日本配備に反対しましょう。

### 日本にオスプレイ17機売却 総額3600億円 米国防総省 議会に通知

米国防総省は5日、垂直離着陸機V-22B オスプレイ17機と関連装備を日本に売却する方針を決め、米議会に通知しました。同省の国防安全保障協力局(DSCA)によると、価格は推定で総計30億ドル(約3600億円)です。日本政府はオスプレイの購入価格として1機あたり100億円程度を想定しており、15年度軍事費に計上した購入経費も5機分で516億円でした。しかし、米側の提示した価格は1機あたり約212億円で、想定の2倍以上です。また、日本側が売却を求めていた関連装備は、ロールスロイス社製エンジン40基や通信・航法システムなど12品目、予備の部品などです。米国製オスプレイの最初の輸出先はイスラエルの予定でしたが、同国が昨年末にとりやめたため、日本が最初の輸入国になる見通しです。防衛省は19年度から陸上自衛隊にオスプレイ17機を順次配備し、佐賀空港を拠点とする計画です。

DSCAはオスプレイの「売却は陸自の人道支援・災害救助能力や強襲揚陸作戦の支援を高める」と言っていますが、オスプレイは墜落しやすい欠陥機です。国内でも芝をこがしたり、ネパール大地震の救援活動に参加したオスプレイが住宅の屋根を吹き飛ばす被害をもたらした「役立たず」と地元紙に報じられました。米国の軍需産業のための対米従属、やめてもらいましょう。

### 横田基地 5月11日(月)～5月21日(木) サムライ即応監査演習

横田基地では、5月11日(月)から5月21日(木)までの予定(土・日曜日を除く)で、サムライ即応監査(SRI)演習が行われています。運用時間帯は、午前6時から午後10時の範囲で、横田基地所属の航空機が運用される予定です。(参考 SRI: サムライ即応監査。ORE を実施し、監査する。※ ORE: 運用即応演習。仮想戦闘環境における基地の機能テスト。テロ攻撃や航空機又は地上戦闘力等による基地への攻撃を想定し、実践的な即応体制をとることを訓練するもの。)